

# 夢中で頑張っていたあの時



植木 貴幸

UEKI Takayuki

(株)奥村組  
本誌編集委員

私が夢中で頑張っていたもの、良くも悪くも印象深い思い出として残っているもの、それは中学生時代の部活動です。

中学生時代、私は器械体操部に所属していました。なぜ器械体操?と思われる方もいるかと思いますが、小学生の頃テレビ番組でカッコよく宙返りをしている某芸能人の姿を見て、単に「カッコいいなあ…こんな事できる様になりたいなあ」と思った事がきっかけです。私が通う中学校に器械体操部があることを知っていたので入学後、他の部活には見向きもせず猪突猛進ではありませんが即、器械体操部に入部しました。

早く技を習得したいという思いで入部しましたが、新入生の役割は器材のセットと片付けがメイン、当たり前ですが、3年生が引退するまで練習らしい練習をさせてもらえませんでした。県大会に出場できなかった3年生が夏の大会をもって引退、ようやく私達は秋の新人大会に向け練習ができる環境となりました。ちなみに当時の器械体操部は、そんなに強い訳でもなく、県大会に出場するなんて夢のような話。野球部やバスケットボール部等、県大会常連組からすれば「弱小」という言葉が見事に合う部でした。しかし、当時の2年生は技術力も高く迫力

のある技を持ち合わせており、引退した3年生に比べたら技量は遥かに上、私達もそんな2年生に感化されながら練習に励み、そうこうしているうちに秋の新人大会を迎えました。男子の体操競技は通常、「床運動」・「跳馬」・「鉄棒」・「吊り輪」・「あん馬」・「平行棒」の6種目ですが、当時の中学生の種目は「床運動」・「跳馬」・「鉄棒」の3種目、私達1年生はある程度の技量を持つ生徒に限り、新人大会に出場する機会が与えられ、私は床運動と跳馬の2種目に出場しました。床運動については、制限時間内に演技が終了する様、演技構成も自分で考えなくてはなりません。部活を引退するまで毎回そうでしたが、私は床運動を最も得意としていたため、色々試行錯誤しながら演技構成を考えたものです。新人大会の当日、多少の緊張もありましたが、やはり技量の差は歴然、散々な結果となり、ほろ苦いデビュー戦となりました。その反面、2年生は大活躍、団体戦も優勝、個人戦においても上位入賞と「弱小器械体操部」のイメージを払拭する活躍でした。新人大会で結果を残した2年生は、翌年、3年生になっても同様に活躍、団体戦においては、市内大会で優勝、地区大会で準優勝し、創部以来初の県大会出場を果たしました。

県大会も終わり3年生からバトンを受け、いよいよ私達の時代に。何故かキャプテンに任命され、部を牽引する事になりました。顧問からキャプテンに指名された時は「えっ俺」という感じでした。何故私がキャプテンになったのか、その理由とは。

当時の私は副顧問（翌年他校に転任しましたが）との折り合いが悪く部活もサボり気味、当校の顧問が、2年生の時出場した市内大会の当日練習を見ていた他校の顧問に「彼、練習不足だねえ。勿体ないなあ。」といわれた事がきっかけで、私をキャプテンにしたと後日聞きました。キャプテンになったからには、何とか先輩達の成績に近いものを残したい



中学生時代の私（右から3番目：修学旅行にて）



まだまだ現役です（写真は二十代前半）

という思いが湧き、私はそれ以降、熱心に練習に取り組む様になりました。その頃はロス五輪が開催されていた時期で、そこで大活躍した具志堅、森末選手の演技を録画して自分なりに研究しました。体操競技は、高度な技を取り入れる事も必要ですが、演技の連続性が重要なポイントとなるので、日々の練習では色々なバリエーションによる演技構成を考えながら練習を行いました。そして迎えた秋の新人大会、団体戦は3位入賞という結果でしたが、個人戦は入賞まで及ばず、前年のリベンジは果たせませんでした。やはり個人戦で入賞を果たしたい思いが強かったので、かなり悔しかったです。翌年3年生になった私は引退まであとわずか、目標である個人戦入賞、県大会出場を目指し、日々練習に励み臨んだ最初の市内大会、練習の成果もあり部全体のレベルもそれなりに上達していました。結果、団体戦は準優勝、個人戦においては床運動で念願の入賞（5位）を果たし、意気揚々とした気分です。1ヶ月後、県大会出場を賭けた地区大会に臨みました。大会は2日間に分けて行われ、規定演技、自由演技の合計点で競われます。部としては、団体戦での県大会出場を目標に掲げていました。県大会の出場権を獲得できるのは上位4チームのみ、もちろん私自身、県大会に行ける自信はありました。大会1日目終了時、団体戦は4位、その日私は何故かプレッシャーを感じており演技はイマイチ、2日目の自由演技で挽回してやろうと思っていました。しかし2日目当日、主力の1人が風邪で欠場、団体戦は4人1組、上位3人の得点で競われるため非常に痛手でした。「まずいなあ」と思いつつ、前日より更にプレッシャーを感じながら試合前の練習をしていた私にアクシデント、前日同様演技のタイミングが合わず苦戦してい

た私は、宙返り後の着地でバランスを崩して左足首を負傷、息ができない程の激痛、その場に倒れ込み自力歩行もできず、そのまま病院へ。骨折はしていませんでしたが、地に足を着く事もできず、松葉杖のお世話になりながら大会会場へ戻りました。もちろん団体戦は棄権、キャプテンである自身の怪我で県大会出場の夢が断たれることになり、悔しい思いと空しい思いが入り交じった心境になりましたが、夢は叶わずとも、がむしゃらに器械体操に打ち込んだあの3年間は、今では本当に良い思い出になっています。

現在中学2年生の娘もバレーボール部でキャプテンを務めています。小学生の時はアタッカー、今はセッターをやっています。1年生からレギュラーで出場、私もよく試合観戦に行きます。新チームで臨んだ秋の新人大会では叶わなかった都大会への出場を目指し朝練・夕練と文字通り日夜バレー漬けで頑張っています。そんな娘の姿を見ていると、私の中学生時代と重なる場面もあります。コートの中では、家族に見せた事もない表情でボールに立ち向かっています。現在部員数もギリギリの7名ですが、目標に向かって全力を尽くしている娘を陰ながら応援しています。



娘もガンバってます（ナイスサーブ!）